

学校関係者評価報告書

愛媛県立松山東高等学校
学校番号(20)

評価実施日		令和3年2月24日(水)	
委員	氏名	所属等	備考
	大西 正氣	松山市東雲公民館長	
	井門 照雄	元愛媛県PTA連合会会長	
	井手 一隆	株式会社「イデコックス」代表取締役	
	井上 敏憲	四国地区国立大学連合アドミッションセンター長	
	葛原 健二	愛媛県庁	
	林 尚文	PTA顧問	
	小川 正人	松山市立道後中学校	
	岡本 千津	八雲保育園	

評価・提言等		提言等に対する改善方策等
1 教育相談について		
委員	評価がCと低いのはなぜか。昨年度よりも上がっており、もっと高い自己評価で良いのではないか。	教育相談の必要性は高い。全日制と通信制があるので、アドバイザーの増員を検討。教員が無理なく生徒と向き合う時間を確保するためには、ICT機器の活用が不可欠である。来年度から生徒が一人一台の端末を持つようになるので、その点も踏まえて改善していきたい。
説明	ポイントが低いことでC評価とした。スクールライフアドバイザーのスケジュールが全部埋まる状況にある。教員も多忙で放課後、相談のための時間がとりにくい。あるいは、生徒への対応によって残業時間が長くなっている。	
2 新型コロナウイルス感染症の影響について		
(1) 特別活動について		
委員	行事が中止になったり、縮小されたりしたにもかかわらず、3年生からの評価が高いのはなぜか。	苦しい状況に対して、本校には、「誰かにしてもらおう」という発想ではなく「自分たちが頑張らなければならない」と思う生徒が多いことがわかる。このような生徒を育てるためにも、「自分で考え、創り出していく力」をさらに育てていきたい。
説明	運動会でも3年生は、「どこまでできるか、どうすればできるのか」を真剣に考えて、実施にこぎつけ、しかも成果をあげた。自分たちでやり遂げたという思いが満足感につながったのではないか。	
(2) 学業・進路面について		
委員	学習進度や受験先に影響はあったか。	休校の間に家庭のWi-Fi環境が進んだ。これにより反転授業などを推進できる条件が整った。対面授業とオンラインを組み合わせ合わせた融合型の学習の研究を進め、より生徒の力を伸ばせる授業を行いたい。
説明	ほとんど変化はなかった。休校の影響は悪いことばかりではなく、以前から導入されていたものの十分には使われていなかったロイノートや、新たに導入したZoomなどのwebツールを使いこなせる教員が増えた。	
3 情報発信について		
委員	ホームページについての保護者からの評価が厳しいが、どのようになっているのか。	毎日更新されなければホームページではないと考える。作成のポイントを簡単にし、学年・部活動を中心に更新できるようにするとともに、管理職による承認もスムーズに行えるようにしたい。
説明	特に部活動。顧問に任せているので大きな差があり、記事が掲載されない部の保護者が不満を持たれているようである。	